



第36期 2023年7月～2024年6月

富士ワイズメンズクラブは「社会を明るくする運動富士市推進委員会」の加盟団体です

国際会長主題	ウルリック ラウドセン	輝かそう あなたの光を
アジア太平洋地域会長主題	利根川恵子	変革のための光となろう
東日本区理事主題	山田公平	未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自身を育み、真の喜びに出会う！
富士山部部長主題	榎本 博	NEO 富士山部
富士クラブ会長主題	吉澤廣美	心とからだ、元気で奉仕！

会長	吉澤廣美
副会長	仁藤斎浩
書記	高野 亨
会計	小澤嘉道
直前会長	菊池初彦
担当主事	金井 淳

## 2023年 12月協調月間 12月 会報 IBC

### 巻頭言

仁藤斎浩

- ★2023年12月例会★
- と き 2023年12月13日(水) 18:30～  
 ところ ホテルグランド富士 (0545-61-0360)  
 受付 増田 隆君  
 司会 鈴木靖巳君
- 開会点鐘 吉澤廣美会長
  - 開会の挨拶 市川文彦君
  - ワイズソング・ワイズの信条 司会
  - 東日本区理事、富士山部長、会長主題の唱和
  - 会長挨拶 吉澤廣美会長
  - ゲスト・ビジターの紹介 吉澤廣美会長
  - 役員会
  - 委員会報告
  - 書記・会計・事務局報告
  - 出席率・スマイル・CS基金報告
  - 閉会の挨拶 岩辺富雄君
  - 閉会点鐘 吉澤廣美会長

### (クリスマス会)

食前の感謝。乾杯 仁藤斎浩君  
 井上ワイズ・菊池ワイズを偲び  
 献杯を捧げましょう。

金井君ギター演奏。リクエストをどうぞ！

11月例会報告

在籍会員	12名	例会出席者	4名	スマイル基金	4,000円	CS基金	0円
休会会員	名	出席率	33%	スマイル累計	114,000円	CS累計	700円
担当主事	1名	ゲスト	名	ビジター	名	総出席者	4名

今年の流行語年間大賞は、プロ野球阪神タイガースの  
 スローガンで、岡田監督の名言である「アレ」(A・R・  
 E)に決まりました。アレとは優勝であることはペナント  
 レース中から叫ばれていましたが、この勢いは止まるこ  
 とを知らず、アレアレという間にリーグアレ、そしてリ  
 ーグアレの勢いは止まらず、ついには日本一となりました。  
 選手たちのアレに立ち向かう人並ならぬ努力と執念、  
 それを上手にコントロールしていった岡田監督の手腕  
 は見事でした。岡田監督は、優勝とか、今年こそはぜ  
 ひ優勝だ、という言葉がダイレクトに使うと選手たちが  
 意識して固くなり伸び伸びとプレーが出来なくなるの  
 ではないか、優勝という2文字を、アレという言葉に置  
 き変えて戦ってきた結果、ついにアレが現実のものとな  
 りました、と語っていました。岡田監督はある新聞で「  
 アレ」について、『「コレ」は近くにある物で、すぐに手  
 が届くが、「アレ」は届きそうで届かないところにある  
 ものだから「アレ」に向かいチーム一丸となって戦って  
 きました』、と。ワイズメンズクラブも「会員増強」を  
 「アレ」にしたら効果抜群と思いますが・・・。

## 11月例会報告

11月例会が定刻どおりホテルグランド富士で開催されました。吉澤会長の開会点鐘で11月の例会が開催されました。ワイズソング、ワイズの信条を声高らかに歌い、唱和しました。吉澤会長挨拶がありました。つづいて仲澤君の食前の感謝の言葉で、食事となりその後、各委員会報告等がありました。在籍会員12名中4名の参加者で出席率は33%でした。これは今までなかった数字ではないでしょうか。スマイルは4,000円でした。その後増田君の閉会挨拶、吉澤会長の閉会点鐘で11月例会は終了しました。

(富士クラブ11月例会・役員会出席者 吉澤・鈴木・仲澤・増田)



11月例会・役員会

## 11月役員会報告

### 議題

- ①2023年11月26日(日)熱海クラブ60周年記念例会について。
  - ・会場 熱海後樂園ホテル 13:30～
  - ・登録者 吉澤会長、仲澤・鈴木・増田の4人
  - ・富士駅発 12:26 熱海行乗車
- ②2023年12月例会内容について。
  - ・飲食込みで5,000円(メンバーは3,000円)
  - ・内容は会員のみで、昨年と同様です。
- ③2024年1月10日(水)富士・富士宮合同例会の内容について。
  - ・登録費 4,000円(富士クラブメンバーは3,000円)
  - ・総計でオーバー分は富士クラブで負担
  - ・卓話  
《金井ドライバー委員長提案》  
SDGsの学び 日本・世界の人口林の課題で45分～60分。NPO法人森の蘇り 副理事長 難波清芽氏  
金井さん案で決まりました。
- ④井上ワイズの件  
2023年10月31日東日本区へ退会届を提出しました。



## 菊池初彦君を悼む

増田 隆

菊池君の突然の訃報に、私はまだ信じられません。11月初め、菊池君から電話があり、何時ものようにワイズの近況など、とりとめのない話をしました。会話の中で



最近の富士クラブの会員減少を非常に心配していました。病床にあっても富士クラブのことを心配している心遣いと気配りは、私の胸を打ちました。私はワイズの事はメンバーが頑張っているから心配しないようにと話し、菊池君は一生懸命治療に専念して、早くみんなに元気な姿を見せてください、と話したばかりでした…。菊池君は2003年に富士ワイズメンズクラブに入会しました。朗らかで明るい性格はメンバーから親しみを込めて「初っちゃん、初っちゃん」と呼ばれていました。多忙な菊池君は、ワイズの例会や事業は休みがちでしたがある時、富士クラブの会報に「ワイズのみな様には、いつもお世話になります。例会に欠席することもあり、大変すみません。でもワイズのメンバーの顔を見るとホッとします。なぜだろう……。やっぱりワイズは最高だ!!」と。

これが菊池君のワイズに対する本当の気持ちだったのでしょうか。いつも心の中ではワイズの事を考えていたことと思います。区大会や富士山部、他クラブに訪問しても常に笑顔は絶やさず、誰とでもフレンドリーに接し、ワイズの未来を楽しそうに語り合っていたのが印象的でした。昨年度第35期富士クラブの会長に就任しました。2年前に菊池君が提案し富士クラブの事業となった「海岸のプラスチックゴミの清掃」に始まり、一大事業だった「環境美化標語」の募集、表彰式、そして市役所前植え込みに看板設置、と、5か月にも及ぶ一連の事業を実行し、息つく暇もなく3月には第27回富士市中学生サッカー大会が開催され、開会式の素晴らしい会長挨拶は菊池君らしさが溢れていました。2日目は朝早くから中学生と共にテント張りに頑張っている姿が最後になろうとは……。会長任期半ばで帰らぬ人となってしまい本人もさぞかし悔しかったことでしょう。私たちメンバーはどんな時も明るく、太陽のような菊池君にいつも助けてもらい元気をもらっていました。菊池君とのお別れは大変辛いですが、これからは、富士ワイズメンズクラブを天国から見守ってください。

どうか安らかに眠りください。

【共に分かち合え 豊かな奉仕を】

2003～2004年 櫻村理事方針より

都市 YMCA と学生 YMCA とが合同して、日本 YMCA 同盟を結成し、2003 年の今年には創立 100 周年を迎えることになりました。

YMCA 同盟では、2003 年 10 月に YMCA 同盟として種々の催しを計画しておられます。この記念事業として、若者リーダートレーニングに大投資をするとの事です。この事業は、次の 100 年に向かっての YMCA の存亡を賭けた、最大の事業と承知しております。私共、ワイズメンズクラブといたしましても、最大限の協力を致しますので、是非、成功させていただきたいと祈っております。ワイズメンズの皆様方に

於かれましてもよろしくご協力のほどを、お願い申し上げます。YMCA とワイズメンズクラブとの協働に就きましては、よく車両の両輪に例えられますが、私は独立懸駕の四輪駆動の車両が最適かと考えています。通常は YMCA とワイズメンズクラブは、独立して活動をしています。いずれの場合でも、前輪・後輪はお互いを尊敬し、そしてお互いを認め合い、自分のアイデンティティを堅持し、尚且つお互いが必要な時は前・後輪を一挙に駆動し協働して、事に対処すべきものと考えています。

私は、これからが新しい時代の YMCA とワイズメンズクラブとの関係が開かれるものと考えています。

ご承知のように、ワイズメンズクラブは 1922 年、オハイオ州トレドにて、ポール・ウィリアムス・アレキサンダー達により誕生いたしました。ワイズメンやワイズウィメンは、YMCA の為の人々であり、YMCA の為にのみ働く人々であった訳でありますから、ワイズメンと致しましては YMCA を心より『あーしてもやりたい、こーしてもやりたい』と、寝ても覚めても、何時でも、何処でも、思っている訳であります。

しかしながらこれらの想いが、何時でも何処でも満たされると言うわけではありません。中々、想いが通じなくて、ワイズメンズクラブが YMCA に対して、所詮『片想いの時』が多いように感じてなりません。この「片想い」は、私だけなのでしょう？「相互理解」・「寛容の心」を持って、YMCA とワイズメンズクラブは「相思相愛」になるべきだと私は思っています。

Y3 が発足して活動されていることには感謝しております。また、ユースコンボケーション等で、アジアや世界の若者たちとの交流を通して、頑張っておられることも承知しています。昨年は、8 月にシドニーで行われましたワイズメンズクラブ国際協会国際大会で、ユースコンボケーションの活動があり、また素晴らしい報告書も拝見いたしました。しかし、これらの活動には、その上に「継続する事」が必要であります。そして、この「する事」こそが力であり、最も大切に重要な事だと思っています。

ワイズメンズクラブとして、最大限の協力を、惜しむものではありません。学校や就職等で大変な時期があるとは思いますが、世界の若者の仲間達と一緒に集ま

って、活動した感動を忘れずに、何時の日にかワイズに顔を出してください。Y3 の仲間であった越智光輝さんは、若いワイズマンとして活動しております。素晴らしいお手本だと感激しています。

(4) It 事業の充実、全クラブにホームページをメーリングリストを利用して、経費の節約、連絡の迅速化。(省略させていただきます)

(5) 一クラブ一事業、特徴ある CS, Y サ活動ワイズメンズクラブが、地域に認められる為に。

ワイズメンズクラブのメンバーの高齢化が問題になっています。高齢化はクラブの退化に繋がります。この事は、アメリカのワイズメンズクラブで、既に実証済みであります。理想的な新陳代謝をおこなうべきとは思いますが、平均年齢だけでは論じられない一面があると考えております。仕事をリタイヤー後、別の意味での



生涯現役を掲げた「元気澁刺、新老人」が一杯います。また、EMC 特別委員会が発足いたしました。国内担当事業主任の北村文雄さんが、委員長として、活発に働いております。これらは、単年度の事業ではありませんので、国内担当事業の中で継続していきたいと考えております。そして、学生 YMCA の OB, YMCA のリーダーの OB の人たちをワイズメンズクラブのメンバーにお誘いするとの活動に入っています。素晴らしい発想で、大きな実りを期待しております。なぜ今までに、このような活動が、実際面でできなかったのか、多くの反省の点があります。我々ワイズメンズ側の想いが、十分に YMCA につたわっていなかった為と考えています。そして、ワイズメンズクラブと YMCA との双方向の意思の疎通が、十分に取れなかった結果だと思っています。我々ワイズメンズ側「片思い」に起因するものと考えています。これからは、若い人たちに、ワイズメンズクラブの仲間に入って頂いて、これ等の若い人たちに、大きな投資をするということが重要であると考えております。この場合の投資は、何も資金的なものばかりではありません。我々の先輩諸兄が 80 年間に亘って培ってきたワイズダムの多くの財産を、今後の将来の為に、残しておくべき物、残しては良くない物等を、若い人たちと相談検討することも大切な事業であります。この様な若者たちに投資のできない組織は、いずれ衰退するものと思っています。最近、新聞紙上に見る多くの犯罪は、戦後の物資至上主義の弊害が若者たちに正しい宗教的教育をないがしろにした結果であると考えています。

(次号につづく)

## 富士山 YMCA SDGs キャンプ報告

富士山と海を守ろう！SDGs キャンプディレクター  
金井 淳

今年の夏休みに実施した「富士山と海を守ろう！SDGs キャンプ」の報告をいたします。まず初めに、背景と課題、キャンプのねらいについてお話いたします。まず、キャンプを企画する背景と子どもたちや富士山YMCAを取り巻く課題としては、第一に、生まれたときからスマホやパソコンなどのデジタルツールに囲まれて育ってきたデジタルネイティブの子どもたちは、デジタル技術への適応性、親和性が高い反面、いじめのツールになったり犯罪に巻き込まれたりなどの課題があります。第二に、富士山YMCAは地域の自然体験を提供する団体等との協働が少なく、子どもたちに体験の機会を提供できていないことが挙げられます。第三に、学



校教育と自然体験教育が乖離しており、学習指導要領に書かれているアクティブラーニングの機会を提供できていないことがあります。第四に、富士山YMCAではSDGs

### SDGs キャンプを報告する金井君

について実感をもった学びや体験の機会が提供できていないことがあります。それらの課題を踏まえ、「富士山の自然の中でのアクティビティを通して、自然の魅力、課題を体験を通して学ぶこと」、「富士山に限らず、山と海が繋がっていること、それらが自分自身の生活にも密接に関係していることを学び、課題の発見と解決策を考え、日常生活で実践できるようにすること」、「チームでの体験、学びを通して、参加者の仲間を作る力、仲間との交流を通して、参加者自身、チームとしての自己肯定感を高めること」をねらいとしてこのキャンプを開催いたしました。参加者は小学5年生～中学生18名が参加し、その中では、東京・神奈川在住の参加者が多く、静岡県からは3名の参加があった。遠くは沖縄県、海外(タイ)からの参加もありました。運営体制としては、学生・社会人のボランティア7名とYMCAスタッフ3名が参加しました。このキャンプは、文部科学省「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」の委託・助成を受けて実施しました。また、富士宮市・富士宮市教育委員会の後援を受けての実施でした。プログラム実施にあたっては、海岸清掃では富士ワイズメンズクラブ、日本・世界の人工林の学び、皮むき間伐体験ではNPO法人森の蘇り、富士山のニジマス養殖についての学び、ニジマスつかみ取りでは、杵塚養鱒場の協力をいただいて実施しました。次に、それぞれのプログラムについてご紹介いたします。1日目～2日目にかけては「プロジェクトアドベンチャー」を実施しました。様々なゲームや課題解決アクティビティなどを通して、チーム作り、ふりかえりを体験し、チームでの体験、話し合い、ふりかえりの素地をつくりました。その中で、ふりかえりの手法のひとつである「ビー

イング」を作りました。「ビーイング」は参加者全員の手のひらで円を作り、その円の中にはSDGsのテーマである「誰一人残さない」ために必要なこと、円の外には「日に作成し、5日間のキャンプの中で、多くのことが書き込まれたビーイングを囲み、自分の手のひらのなかに自分の「アクションプラン」を書き入れ、ビーイングを完成させました。キャンプ終了後、数日後にアンケートの回答をいただきました。参加者からは、「フードロス減らす買い物をしたり、自分の食べ物を残さないようにしたりしている。」「誰一人取り残さないことについて皆で考えたものを常に意識しながら、生活をするように心掛けている。」といった声が、保護者からは「自分のことを自分でやるようになった。」「周りへの気遣いができるようになった。」といった声が聞かれました。最後に、子どもたちの発言、行動、アクションプランを通して、指導者である大人も学ばされるものが多くありました。次年度以降も継続的に同様のテーマのプログラムを実施しより広範囲な地域から子どもたちが参加し、さらに、指導者も日本人だけでなく、海外の指導者にも携わってもらい、より様々な価値観に触れる機会となるほうが、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の学びが深まると思います。このような企画が5年、10年と続くと、今回の参加者が指導者として参加できるようになり、SDGsを実現させる担い手、リーダーとして活躍してもらいたいと思います。

富士山YMCAだより

富士山 YMCA 金井 淳

今年の年末年始、富士山YMCAでは「年末年始ファミリーキャンプ」を実施いたします。コロナウィルスの影響で開催を取りやめていたので、4年ぶりの開催となります。参加者もリピーターが多く、キャンプが終わるときには、参加者同士で「また来年」と言って帰っていく様子が印象的です。私自身も大学生のリーダーの頃から参加し、スタッフとしても10年近く毎年参加をしており、小学生だったメンバーが中学生、高校生、さらにはリーダーになっていく様子を見ることができ、とても嬉しいです。YMCAのブランドスローガン「みつかる、つながる、よくなっていく」を体現するキャンプです。

